

H24年度 学校評価結果公表シート

学校法人 廣瀬学園
名張よさみ幼稚園

当園では、平成24年度の幼稚園学校評価として、教職員自己評価及び、学校関係者評価を実施致しました。教職員自己評価においては、教職員一人ひとりが、自らの教育活動や園経営の状況を客観的に振り返ることにより、自身や園全体を見つめ直し、更なる自己研鑽を目指す非常によい機会となりました。
今年度の学校評価結果を活かし、来年度以降の更なる教育活動の充実、教職員の資質向上に努めていきたいと考えております。

I. 教育目標

教育目標

「清く・正しく・たくましく」 自らの力で行動できる幼児を育成する

教育方針

「自立心・自主性の育成」

教育の特徴

1. 強い身体を育てる。(体育遊び、乾布摩擦を通して)
2. 自然や社会の身近な環境に親しむ。(栽培や飼育活動、行事などを通して)
3. 人とかかわる力を養う。(異年齢交流、地域交流を通じて)
4. 豊かな感性と想像力を養う。(数と言葉の遊び、音楽リズム、造形活動を通して)
5. 「6つの心」が自然と身に付くように育てる。(社会、言葉を通して)
 - ・「おはようございます」という 明るい心
 - ・「はい」という 素直な心
 - ・「すみません」という 反省の心
 - ・「わたしがします」という 積極的な心
 - ・「ありがとうございます」という 感謝の心
 - ・「おかげさまで」という 謙虚な心

II. 今年度の重点目標

自己点検、自己評価を実施することによって、教師自らが客観的に自園を見る目を養い、施設や教育内容の改善に主体的に取り組んでいくための姿勢を身につける。
また、周囲の自然や子育て支援の充実など自園の長所を確認し、特色を活かした教育を行っていく為の土台を作る。

Ⅲ. 評価項目と取り組み状況

評価項目		具体的確認項目	評価	取り組み状況
1	教育方針・目標	園の教育方針や目標、園長の思い等を共有することができているか。また、その為にどのような取り組みがなされているか。	A	園の教育方針や目標については、毎日の朝礼の際に職員全員で唱和し、共通理解に努めている。そして、常に念頭に置きながら柔軟に幼稚園教育が実践できるよう話し合っている。また、行事などの内容も教育方針に沿ったものになるよう取り組んでいる。
2	指導計画の作成と評価	保育カリキュラムの評価・反省を行い、次の保育と計画に活かせるように取り組んでいるか。	B	毎日の反省は日案に記録し、毎月末に反省点をまとめ同学年の職員間で話し合い、次月の保育計画に活かしている。実践した保育の反省評価は終礼時に職員間で話し合い、会議録にまとめ、園全体として共通理解に取り組んでいる。その中で、保育の充実を図ろうと週日案作成時に予定を入れすぎてしまうため、次年度には少し時間の余裕をもった計画をすすめられるようにしていきたい。
3	教育環境の構成	異年齢の幼児が自然に交流できるような環境構成ができているか。また、その為にどのような取り組みを行っているか。	A	異年齢保育(スマイルデー)を毎月行っており、計画的にグループ交流ができるよう指導を行っている。お弁当を一緒に食べる日も作り、日常生活習慣などの手伝いも年長組が自然に出来る姿が見られる。子どもたちの優しくする気持ちや思いやる気持ちをに効果が現れている。挨拶も礼儀正しく積極的に出来るようになってきている。また、職員間でも反省や振り返りをして次回の保育内容や個々の子どもの捉え方など課題を持って次へ進めている。
4	指導と関わり	幼児がそれぞれの興味や関心、能力に応じて全身を使って活動することができる環境を整えているか。	A	音楽や造形、体育遊びなど身体全体を使った動的な活動と茶道などの静的活動の保育を総合的に実践している。また、園庭の遊具や室内の自由遊びの物品などの配置にも気を配り、保育室の装飾なども子どもたちの思いや興味のあることを積極的に取り入れている。
5	研修・研究への取り組み	研修・研究への取り組みが十分に行われているか。	B	随時園内研修に取り組んでいる。外部研修としては、様々な研修会の案内を職員に提示しその中から自らの意志で参加している。月1回程度、公開保育を実施し職員間で教材、研究を行っている。また、新任研修、中堅、リーダー研修、領域ごとの研修を行っている。反省会や研修の中で職員の研究意識を高めるようにしている。ただ、研修成果を実践保育に置き換えての取り組みが不十分である。

評価項目	具体的確認項目	評価	取り組み状況
6	安全管理体制の整備	安全管理の為の体制は十分に整っているか。 また、具体的にどのような取り組みを行っているか。	A 避難訓練を分野ごとに定期的実施し、火災・地震・防犯などの避難にとっさの判断ができるよう意識を高めた。また、年1回消防職員に来てもらい、消火訓練等の指導をもらっている。来園者の園内立入証の着用、防犯カメラ、自動開閉門を設置している。
7	衛生管理体制の整備	衛生管理の為の体制は十分に整っているか。また、具体的にどのような取り組みを行っているか	B 手洗い、うがい、消毒を徹底しており、保護者など外部からの来園者にもご協力いただいている。感染症が流行時には保護者へ素早く周知し、お茶うがいなど子どもたちも気をつけるようにしている。 給食など食品を扱う際には、マスク、手袋の完全着用を実施している。
8	地域の人々、自然との関わり	地域の人々や自然との関わりを積極的に持つことができているか。	A 小学校や中学校との交流や、老人ホームへの訪問を行っており社会への関わりを促進している。田植えやいちご狩り、タマネギ掘りなど地域の方からのお誘いには積極的に参加していると共に自然に触れることを大切にしている。クラス毎の畑作り、計画的に野菜の栽培体験を通し、生長を身近に感じ食育にも関心を持つ。子育て支援に力を入れ、地域の方との触れ合いを深めている。

【評価の基準】

A	十分に達成されている
B	達成されている
C	取り組みはされているが、十分ではない
D	取り組みが不十分である

IV. 今後取り組むべき課題

1	指導計画の作成と評価	指導計画の反省は個々に、学年毎に次へ活かせるようにしているが、今後は学年を超えた反省の共有を積極的に取り組むと共に反省内容や課題などをしっかりと記録に残し、年度末に職員間で引き継げるよう、書式などの改善をしていく。
2	研修・研究への取り組み	園内研修・外部研修と学ぶ機会を沢山つくっているが、職員間での情報交換などを出来る時間を作る。また、聞く・見るばかりの学びにならないよう実務経験年数の異なる職員間でのグループ討議研修を取り入れ、実践から気づき、考える力を共有し、保育の質を向上していく。
3	安全管理体制の整備	園内の安全対策、避難訓練は継続的に取り組んでいくと共に、地震対策については保護者も巻き込んだ訓練も実施していきたい。防犯対策にも注力していきたいと考える。特に危機管理マニュアルの整備に取り組みたい。
4	地域との連携	現在も地域の方との交流は積極的に行っているが、これまで以上に地域行事への参加や子育て支援の活動の幅も増やし、マタニティークラスとしての新たな取り組みも充実させていきたい。地域への情報提供をより工夫していく。

V. 学校関係者の評価

上記の通り、適正に実行されていると判断できる。

先生方の園児に対する一生懸命な姿勢に、入園児定員超過という結果にも表れている。この学校評価での反省を活かし、来年度さらに向上されていることを期待します。